

会 議 録

会議の名称	第2回清須市総合計画審議会
開催日時	令和6年3月28日(木) 午後1時30分から午後4時まで
開催場所	清須市役所南館3階 大会議室
議題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>《報告事項》</p> <p>(1) 市民満足度調査及び市政推進委員アンケートの結果について</p> <p>(2) 市民参画会議の実施結果について</p> <p>(3) 第2次総合計画(後期基本計画) 達成度指標の達成状況及び評価について</p> <p>《審議事項》</p> <p>(1) 第3次総合計画 序論・基本構想の検討について</p> <p>(2) 第3次総合計画 前期基本計画骨子の検討について</p> <p>4 閉会</p>
会議資料	<p>会議次第、委員名簿、配席図</p> <p>[会議資料]</p> <p>資料①-1 第8回(令和5年度)市民満足度調査及び市政推進委員アンケートの結果について</p> <p>資料①-2 第8回(令和5年度)市民満足度調査報告書</p> <p>資料①-3 第8回(令和5年度)市民満足度調査報告書 回答理由一覧</p> <p>資料①-4 第3次総合計画策定に係る市政推進委員アンケート調査結果</p> <p>資料②-1 市民参画会議提言書</p> <p>資料②-2 第3次総合計画策定に係る市民参画会議 実施報告書</p> <p>資料③ 第2次総合計画後期基本計画 達成度指標の達成状況及び評価</p> <p>資料④ 第3次総合計画 序論・基本構想素案</p> <p>資料⑤ 第3次総合計画 前期基本計画の骨子案</p> <p>参考資料① 清須市総合計画審議会設置条例・清須市総合計画審議会の公開等</p> <p>参考資料② 第1回総合計画審議会(令和5年9月29日開催)の振り返り</p> <p>参考資料③ 清須市人口ビジョン(令和6年改訂版)案</p> <p>参考資料④ 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2025骨子案</p>

公開・非公開の別（非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数（公開した場合）	1人
出席委員	後藤（小）委員、水野委員、後藤（鈴）委員、鎌田委員、後藤（隆）委員、時田委員、佐藤委員、後藤（悦）委員、渡辺委員、野田委員、水谷委員、山田委員、齋藤委員、前田委員、原委員、高山委員、横井委員
欠席委員	堀田委員、伊藤委員
出席者（市）	永田市長、葛谷副市長、天竺教育長、河口企画部長
事務局	〔企画部企画政策課〕 林課長、神野課長補佐兼企画政策係長、 秋山副主幹、山口市民協働係長、岩田主査 〔株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 東海支社〕 江口、門澤
会議録署名委員	後藤（鈴）委員、鎌田委員

1 開会

（林企画政策課長）

ただ今から、第2回 清須市総合計画審議会を開催します。

はじめに、審議会の開催にあたりまして、永田市長からごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

（永田市長）

皆さまこんにちは。本日の昼に、名古屋市が桜の開花宣言をしたようです。清須市ではまだあまり咲いておらず、明後日に、商工会と観光協会主催の五条川さくらまつりを開催するので、少しは咲くと良いなと思っています。

本日はお忙しい中、総合計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

今回から、新しい委員として、まち・ひと・しごと創生総合政策戦略推進会議から高山 孝治 様、総合計画策定のための市民参画会議から横井 弘子 様のお二人にご参画いただいています。よろしく願います。

今回の審議会では、市民の皆さまの声を計画策定に反映していくことを目的に実施いたしました市民満足度調査や市民参画会議の結果等についてご報告をさせていただきます。これらの結果は、市民の皆さまの生活実態に基づくご意見として、市としても真摯に受け止めていく必要があると思っています。

新たに策定する第3次総合計画は、社会情勢の変化に伴い、これから自治体が力を入れて取り組んでいかなければならないこと、そして、市民の皆さまが市に求めていることなどを両立させながら、今後、清須市がよりよいまちとして発展

していくための指針となる内容につくりあげていきたいと思ひます。

また、皆さまご存じのとおり、清須市は来年、市制施行20周年を迎えます。昨年からロゴマークの制作を検討していたところですが、この度、清須市出身の漫画家の鳥山明先生に手掛けていただくことができました。このロゴマークを発表したばかりのところ、残念なことに3月1日、鳥山先生が逝去されました。ご冥福をお祈りするとともに、本市の20周年にご協力いただいたことに感謝し、このロゴマークをしっかりと活用していきたいと思ひています。

今年度は、20周年のPRを行いながら、来年度である令和7年度に各種イベントなどを行っていくこととなりますが、委員の皆さまにはご協力のほど、どうぞよろしくお祈りいたします。

本日の審議会も、委員の皆さまそれぞれの立場から忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げまして、冒頭のごあいさつとさせていただきます。

(林企画政策課長)

第1回の審議会でもご案内させていただいたとおり、本日、第2回の審議会から、新たに委員としてご参画いただいている方がお二人おみえになりますので、ご紹介させていただきます。

まずは、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の委員を代表いたしまして、司法書士の高山 孝治 様でございます。

(高山委員)

高山でございます。よろしくお祈りいたします。

(林企画政策課長)

続きまして、第3次総合計画策定に係る市民参画会議の参加者を代表いたしまして、横井 弘子 様でございます。

(横井委員)

はじめまして。横井 弘子と申します。どうぞよろしくお祈りいたします。

(林企画政策課長)

お二人には、お手元に、委嘱状を配付させていただいておりますので、ご確認ください。

なお、本日は、商工会会長の堀田委員と、令和4年度はたちのつどい実行委員の伊藤委員は、所要のためご欠席となっております。

また、本日の会議は、委員19名中17名のご出席をいただいております、過半数を超えておりますので、清須市総合計画審議会設置条例第6条第2項の規定により会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、ここからの会議の取り回しは、野田会長にお願いしたいと思ひます。よろしくお祈りいたします。

(野田会長)

皆さまこんにちは。本日は、第2回目の総合計画審議会ということで、委員の皆さまより忌憚のないご意見、活発なご議論をよろしくお願いします。

まずはじめに、会議録署名委員の指名をさせていただきたいと思います。名簿の順にお願いをしておりますので、本日の会議は、後藤 鈴明委員と鎌田委員にお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

議事に入ります前に、事務局より簡単に、前回の審議会の振り返りを願ひします。

(岩田主査)

本日、事務局の説明を担当いたします、企画政策課の岩田と申します。

まず、お手元の、参考資料②に沿って、前回の審議会の振り返りをさせていただきます。

【参考資料②を説明】

(野田会長)

この第1回審議会の内容を踏まえて、本日は、各種アンケート調査や市民参画会議などの結果報告、そして、基本構想の素案や、基本計画の骨子についての審議をしていくこととなります。

3 議事

《報告事項》

- (1) 市民満足度調査及び市政推進委員アンケートの結果について
- (2) 市民参画会議の実施結果について

(野田会長)

それでは、早速、議事の報告事項について、事務局から説明をお願いします。

(岩田主査)

【資料①-1、①-2、①-3、①-4、資料②-1、②-2を説明】

(野田会長)

事務局から、市民アンケート、市政推進委員アンケート、市民参画会議の3つの結果について説明をいただきました。

これは、要するに、市民の皆さまはどう思っているかという市民ニーズを把握したということです。

この後に、計画の総括に関わる達成状況、いろんな行政指標をもって計画がどのように進捗しているのかを説明いただきます。

これらを踏まえて、本日は最終的に、基本構想素案や基本計画の骨子についてご意見、ご審議いただきます。このアンケートと次の達成状況に関しては、報告

事項ではありますが、もし、委員の皆さまから、ご質問やお気づきの点がありましたらお願いします。

(山田委員)

2点、お伺いさせていただきます。

1点目に、市政推進委員アンケートの対象者38名の年齢構成はわかりますか。

2点目に、市民満足度調査報告書において前回、前々回と比べて満足度が下がっているし、重要度も下がっているという結論なのですが、このことについて事務局はどのように感じていますか。

同一の方にアンケートをとっているわけではないので、個人として前回よりも重要度が減っている満足度が減っていると答えているわけではないのですが、総じて事業が継続されていくと、重要度が高いものでも継続することでだんだん普通なことになり重要度が下がっていく場合もあります。同様に満足度自体が低減していくことも感じられるのではないのでしょうか。

(岩田主査)

1点目の市政推進委員の38人の年齢についてですが、このアンケートは、年齢別での整理等はありませんが、市政推進委員の方々の年齢などの情報は、市として把握しております。

(野田会長)

だいたい、どの年代が多いか分かりますか。

(岩田主査)

手元に資料がないため、正確な事は申し上げられませんが、若い世代というよりは現役世代を引退したような、ある程度、年齢を重ねられた方が割合としては多いです。

また、2点目についてですが、ご質問の中でもありましたように、どうしても回答をいただく方の主観に伴う回答結果になってしまいます。それが集まったものがある程度の市民の方の生活実感を表すものであろうというもので、社会情勢が変わっていく中で市民が今どのような施策を必要だと思っているのか、また、満足しているのかというところを把握するものです。

(野田会長)

客観的に考えると、普通は重要度も満足度も高いという場合は従来通り、継続して行うという考え方になると思います。

重要度が高く満足度が低くなっていると解釈された場合は、重要だと思われているのに、今現在、十分に満足していないということなので、ここは重点的にやっていくべきと捉えることができます。

しかし、市民の意向だけで全部決まるわけではありませんので、行政で議論し組み合わせながらやっていかれるということです。

山田委員がおっしゃられたように、ずっと継続しているとその満足に慣れてしまい、やってもらって当然で、満足の意味合いが少し薄れてくるという部分もあるので、基本的な方針として、満足度が低くて重要度が高くなった部分については重点的に見るべきだと思います。そういう基本方針と現状の部分を組み合わせながら検討していただければと思います。

(山田委員)

もう一点、この相関図のなかで特異的に移動しているものがあれば教えていただけますか。

(岩田主査)

この資料では、前回の調査との比較において、37の施策について重要度や満足度が前回とどれくらい変化、増減をしているかを相関図としてまとめています。例えば、右下にあるようなものは、重要度はある程度高いまま満足度が極端に低くなっているものというものが固まっています。こういったところを特異な動きとして、今後、これらの施策をどのように考えていくかは検討していく必要があると思います。

(野田会長)

数字上の変化としては右下にあるようなものについては重点的に、あるいは、しっかりやっているのに評価が低い場合はしっかりみていくべきかもしれません。

(後藤(隆)委員)

資料①-2の12ページから、第1回から実施している満足度調査等の推移がありますが、このなかで、今回上がったたり下がったりしたものについて、市として、これをやったから上がった、逆にこれをやめたから下がった、やったのに下がったなど、想定内、想定外のことがあれば教えてください。

(野田会長)

実感としてはなってしまうかもしれませんが、市の取り組みと連動させながら答えられるものはありますか。

(秋山副主幹)

このアンケート調査は、37の施策の下にたくさんの事務事業がある中で、それを集約して答えていただいているものですので、具体的にこれをやったから上がった、やめたから下がったという判断は、難しいのが現状だと思います。

あえて分かりやすいものと言いますと、18ページの政策4の「23 斎苑」については、斎苑が完成した時に満足度が上がったということが分かりやすいと思います。ただこれは、斎苑が単体で施策として成り立っていることから、判断しやすい一例になりますが、その他の施策においては、様々な取組を組み合わせた結果ですので、取組と紐付けてというのは、申し訳ありませんが、市として明確に

回答を示すことは難しいのが現状です。

(野田会長)

明らかに昔より少しずつ改善しているなどというのが、私もこれまで関わらせていただきながら思っているのですが、外部的な要因によってもだいぶ違ったりもしますので、頑張っているのに満足度が落ちているなど見受けられるところも結構あります。

とはいえ、それが市民の率直な感覚なので、それを踏まえながらいかがでしょうか。

市民参画会議の結果についても、資料に提言書としてとして、まとめてはいただいておりますが、横井委員、追加で補足したいことなどありますか。

ここにこう書いてあるから、これが計画のここに反映されているというような、細かい紐づけはなかなかできませんが、市民参画会議の場へ出たご意見を、今後の基本構想、基本計画を考えるにあたって、方向性として反映していくということになると思いますし、個別の事業を推進するにあたって、市民参画会議での議論を振り返りながら、なにかございましたらお願いいたします。

(横井委員)

私は、子ども食堂の活動をしていまして、特に、子どものことや、一緒に活動できる高齢者の方、ひきこもりの子、不登校の子、障がい者のある子等を交えた、「はぐくむ」という感じの温かいものを、何かのかたちで進めていければと思います。市民参画会議の中でもお話をさせていただきました。子ども食堂を通じて子どもたちの居場所づくりが展開できたら素晴らしいと思っています。

(野田会長)

ありがとうございます。個々の話は基本構想の先の基本計画に紐づいてくる個別の事業でご意見をいただく機会がでてくると思いますけれども、ただ、今の話をうかがっていると、前回の審議会で、委員の皆さまの中で、若干白熱した議論が交わされた「はぐくむ」という言葉については、方向性として良いのではという、ご理解をいただけているなと思いました。ありがとうございました。

《報告事項》

(3) 第2次総合計画（後期基本計画）達成度指標の達成状況及び評価について

(野田会長)

それでは、続きまして、報告事項(3) 第2次総合計画（後期基本計画）達成度指標の達成状況及び評価について、事務局から説明をお願いします。

(岩田主査)

【資料③を説明】

(野田会長)

事務局から説明がありましたが、ご意見やご質問等があればお願いします。

例えば、19ページの政策7は、他の政策と比べて○の割合が高くないのですが、政策7は「つながりを大切にするまちをつくる」で、広報、広聴、コミュニティ、協働というところです。これが、市民アンケートの満足度が低下しているというところに連動しているかもしれません。後藤 隆之委員がおっしゃったことが反映されているかもしれない部分があるかと思います。細かく見ていくとこのように連動する部分もでてくるかと思います。

(水谷副会長)

19ページのグラフの政策3「誰もが健やかにいきいきと暮らせるまちをつくる」◎34.8%、▲60.9%、○4.3%であり、両極端にわかれている数値です。この結果について何か考えらえることはあるのですか。

(野田会長)

何か理由として思いあたることはありますか。政策3は「誰もが健やかにいきいき暮らせるまちをつくる」ということなので、地域福祉や高齢者福祉、障がい者福祉、医療保険、健康づくり等については◎と▲の割合が多く、極端に○の割合が少なくなっています。業務の性質上、難しいのでしょうか。

(永田市長)

例えば、7ページ「医療保険・年金制度の適正運営」は、ほとんど▲になっています。これは事業課の方も非常に苦勞していたところで、新型コロナウイルス感染症の影響で健診を受ける人がぐっと減ってしまいました。今後は、おそらく上がっていくだろうと思いますが、これらの分野では、全般的に新型コロナウイルス感染症によって、様々な福祉サービスがあってもそれに参加しない人が多くいたので、そこが数値として出てきた部分だと思っています。

(野田会長)

新型コロナウイルスの影響もあって、▲の数が極端に多くなってしまい、その割合が上がってしまったことで、他が割合として小さくなってしまいうので、○の割合が少ないことの説明ができるかと思います。ありがとうございました。

《審議事項》

(1) 第3次総合計画 序論・基本構想の検討について

(野田会長)

それでは、ここからは審議事項になります。本日の審議事項は2つありまして、ひとつは、資料④の序論・基本構想素案、もうひとつが、資料⑤の基本計画の骨子案です。

ここまでご覧いただきました、基礎的な調査の結果などを踏まえて、この資料④と⑤が作られているとお考えください。

では、まず、審議事項の一つ目について、事務局から説明をお願いします。

(岩田主査)

【資料④を説明】

(野田会長)

それでは、この資料④についてご意見やご質問があればお願いします。

(水谷副会長)

8 ページ、9 ページに「清須市を取り巻く社会情勢」が①から⑩まであり、非常に重要なことが書いてありますが、ここに抜けている、もっと重要視したほうがよいのではという点について発言させていただきます。

1 点目は、「⑤地域共生社会の実現」のところで、これから10年先を見るので、高齢化が進み、生産年齢人口も少しずつ減っていきます。生産年齢人口が減っていくということは、30代から50代が減っていくということです。

既に起こりはじめているのですが、特に女性は、子育てをしながら親の面倒を見る、いわゆるダブルケアをしている人が大変増えてきていまして、私の周りでも実際に増えています。生きるのに精一杯でどうしたらよいのか分からない、と日々泣いています。文章中にも「ダブルケア」と表記があるのですが、かなり深刻な問題で、子どもにとっても高齢者にとっても生きにくい社会になります。そういったことが、今後10年で更に深刻化するということです。

ここでまた問題なのは、ダブルケアの話をしていても社会的認知が得られない。特に、政策や計画を作っている市の職員は男性が多いので課題として認識されにくく、政策に反映されにくいところです。他の市町を見ても若干思うところですが、これは実感を伴って大変だということをお伝えしたかったというのが一つ目です。

2 点目はこの10個の中に経済関係のことを載せてはどうでしょうか。

若い人が子育てをする段階で清須市から出て行ってしまうという統計が出ています。子育てをして清須市に定住してもらおう、そこでキーとなるのが、先ほどの資料を見ると、魅力的なお店が少ないと不満があったので、清須市のなかで事業を営む人たちを今後10年で増やせるかどうかポイントとなります。そのあたりの現状認識も加えられると良いと思いました。

また、世界的に円安が進み円の価値が下がっていて、逆に輸出をどんどん進めていくチャンスでもありますので、そのあたりも社会情勢として書けるとよいのではないのでしょうか。

(岩田主査)

1 点目については、「⑤地域共生社会の実現」のなかで、ダブルケアという言葉こそ出てきていますが、より訴求性のある書き方にしたほうがよいというご意見かと思しますので、事務局で再度検討したいと思います。

また、2 点目の若い世代の移住や、魅力的なお店が少ないといった問題についてですが、この「清須市を取り巻く社会情勢」に掲載しているものは、清須市特有の事情というよりは、全国的に社会全体の問題とされているものを取り上げて

掲載しております。ですので、清須市特有のこれらの課題については、社会情勢として整理するよりは、また別のところで整理させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(野田会長)

1点目については、水谷副会長がおっしゃったことを踏まえて、事務局で修正していただけたとのことでした。

2点目については、社会情勢というよりは、それ以外の基本計画の中で議論していくべきかもしれません。円安の話も、円安はずっと続くわけではないので、確定的に計画に盛り込むことは難しいように思います。

しかし、そういった社会情勢を見ながら、政策や取組を常に軌道修正できるようにしておくことは重要だと思います。

(高山委員)

基本構想、政策3の下から2行目に「自分らしくいきいきと暮らすことができるまち」、政策6の上から3行目に「多様性が重視される社会」という言葉が出てくるのですが、個人的には多様性の尊重というのが、今後10年の間で大切になってくると思います。4つの基本理念の「はぐくみ」のなかに、多様性を入れてはどうでしょうか。お互いを尊重できるまちづくりにするため、皆で意識し合って暮らしていきましようという、その言葉をつけて格上げして使ってほしいと思います。

もう1点、市民満足度調査を見ていると、防災のところが重要だと思うのですが、満足度がなんとなく下がっている。治水対策に関しては、重要度も微妙に下がっていました。東海豪雨の被害から時間が経つにつれて意識が薄れてきているのかもしれない。

資料①-3の市政推進委員のアンケート結果を見ても、関連する自由意見の中で、防災・減災対策のところに「防災・減災対策について市民に啓発する機会が少ない」との意見があります。具体的な改善策はないのですが、例えば、水害の時に電信柱のここまで水が来たという表示をつけるなどの様々な意見が出てくるかもしれません。一方ではそのような表示がある危険な所に住みたくないと思われるかもしれない。表裏があるのでこれをやったらいい、というはっきりした案は個人的には出てきませんが、見える範囲での防災への意識づけを考えていけたらと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。後半の、防災に関する話は、今後、基本計画を検討するにあたって重要なお話になってくるかなと感じました。

前半の部分についてですが、4つの基本理念の「はぐくみ」のなかに、「多様性」というキーワードを入れ込むことの是非や可能性について、皆さまはどのようにお考えでしょうか。

高山委員に質問ですが、多様性とは清須市では具体的に何なのか、どのようなイメージをもっていますか。

(高山委員)

政策ではそのような言葉が出てくるので、「多様性」という言葉をもっと格上げして大きなところに「多様性の尊重、お互いに尊重しあえるようなまちづくり」という言葉を入れてはどうかと思いました。文章に違和感なく入れることができればと思います。

(野田会長)

「多様性」のキーワードを使うときによくあるのは、外国の方の数がすごく多い地域での使用や、ダイバーシティという言い方をしながら、ジェンダー平等の意味を込めるなどのスタイルが多い気がします。そもそもの多様性の意味、世代や考え方の多様さ、というような考え方でいくのであれば、「世代や地域、官民の枠を超えて、…」の部分に「多様な」などのキーワードが入っていれば、つながるのかなという気がするので、そのような方向でご検討をお願いしたいです。

(高山委員)

私のイメージとしてもなんとなく、一番下のあたりが入りやすいのかなと思います。文章の構成は事務局にお任せします。

(野田会長)

国籍の違いよりも世代間の価値観の違いのほうが大きい可能性もあると最近思っています。この価値観を乗り越え、尊重して、受け入れて乗り越えるところに新しいものが見いだされるようなイメージですね。

(高山委員)

世代で考え方が全く違うので、ジェンダーですとか、そういったところの意味も含めて「お互いに尊重して」という意味合いの文言を入れられたらと思います。

(野田委員)

もともとそのようなニュアンスも含まれているかと思いますが、今のご意見を踏まえて、事務局には、書きぶりの修正をお願いしたいと思います。

(後藤(隆)委員)

清須市の基本理念、将来像、7つの政策、いろいろあるのですが、例えば、基本理念は「安心・快適・魅力・はぐくみ」でわかりやすい。同じように「安全で安心で暮らせるまちをつくる」というのもわかりやすいのですぐ入ってきます。

ですが、この説明の文章を読むと難しいことが書いてあり読むのに頑張らないといけないと感じましたので、もっとわかりやすくできないでしょうか。

例えば、基本理念の「魅力」の説明に「連綿」とありますが、聞き馴染みがない言葉なのでわかりやすく書いていただくとよいのではないのでしょうか。

先ほどの高山委員がおっしゃられた、東海豪雨の時にどこまで水がきたのか、過去の災害によって何が起こったのか、ということがわかるとよいかもしれませ

ん。例えば、東日本大震災のときは、30～40年前に大津波が来たという記憶が忘れられて地震が来たときにあまり避難しなかった結果、あのような大災害になってしまいました。同じような考えでいくと、2000年に起こった東海豪雨から25年近く経っています。若い世代の方は、清須市でどれだけの災害が起こったかを知りません。それを知らせるために、過去にどのような水害があったのかがわかるものがあればよいと思いました。例えば、名古屋市西区のあし原公園の公衆トイレは地上から2mのところ壁の色が変わっており、ここまで水が浸かったとわかるように色が塗ってあります。今後、災害時に避難するときはそれを参考して避難するという何かがあるとよいと思います。

(野田会長)

1点目の「連綿」がわかりづらいというのは、漢字が原因ですか。

(後藤(隆)委員)

漢字と言ひ回しが堅い印象があります。

(野田会長)

「連綿と受け継がれてきた」ではない別の言い方は何かありますか。

(後藤(隆)委員)

代わりになる言葉は今すぐには思いつきませんが、「連綿」という言葉が堅いという印象で、ぱっと意味がわかりませんでした。普段生活するうえで「連綿」を見る頻度は低いかもしれません。事務局でよい案はありますか。

(岩田主査)

具体的にすぐどのように変えたらよいのかは難しいのですが、第1回目の審議会のなかでお示した策定方針の「計画策定において重視する事項」として「分かりやすい、伝わる計画づくり」を掲げていますので、それを念頭において作っていきたいというところがあります。文章が堅くてわかりづらいというご意見については、重要なお指摘ですので、一度検討させていただきたいと思います。

(野田会長)

後藤 隆之委員のご意見のように、何かここがわからないという部分があれば事務局でも再考しやすいので、また、ご意見があればお願いします。

(後藤(小)委員)

私は、教育委員という立場で、どうしても子どもに関わる部分に目がいくのですが、日本全国で子どもの数が減っており、清須市もそのなかのひとつということで、地域の宝である子どもたちをいかに育てていくかを考えて、教育委員会でも力をあげて取り組んでいます。次の10年間も、子どもがいきいきと育っていくような社会にしていけることが望まれますので、政策2「子どもの笑顔があふれるまちをつくる」は内容も納得できますし、表現の仕方もこれでよいと思いま

す。子育てはそれを育てる保護者も親世代も地域も皆がつながっていくので、政策7「関わる人々の思いを大切にすまちをつくる」というのも、地域皆がつながって、つながりをもって、人と人とのつながりを大切にすまちづくりをしていただけるといいなと思いつながりを見させていただけました。

(野田会長)

子どもが笑顔でいられるまちということを実現したら、すべてが許せるという感じがします。先ほどの多様性の話もひとつの尺度として、子どもが笑顔でいるということが、あらゆる価値観、地域のよりどころにあるような気がするので、そういった意味で、政策2で「子どもの笑顔があふれるまち」ということを掲げているのでよいと思いました。

(山田委員)

「清須市を取り巻く社会情勢」の「⑧社会資本の維持管理や更新」に「インフラ」とあるのですが、後段の政策4「便利で快適に暮らせるまちをつくる」の6行目に「ライフライン」と書いてあります。使い分けと違いについて教えてください。

(野田会長)

社会資本のほうは、道路、河川、港湾、公共施設、全部含めた総称です。インフラはその同義語に近いのですが、地域公共施設を除く道路基盤をインフラと置き換えることが多いイメージです。市街地整備に関しては事業単位に近いような話になりますので、ここでのライフラインは生活に直結している上下水道ですとか、そういう意味だと思います。

(後藤(小)委員)

17ページの政策1「安全で安心して暮らせるまちをつくる」のなかに東海豪雨のことが書かれています。西枇杷島地区の小学校で語りべをしています。小学生はもちろん災害を経験していないので、子どものときから語り継いでいくことも大事な防災教育だと思います。文言として「東海豪雨の記憶を風化させることなく教訓として語り継ぎ」という言葉を入れてはどうでしょうか。

(野田会長)

そうですね。今のような表現の修正は可能だと思います。

(水野委員)

私自身は、後期高齢者であり10年先を見通すのはなかなか難しいです。前回も委員をやっていて気になったのが、清須市の商工会がなぜ発展しないのかです。財政的余裕がないと理想論も言い出せないと思います。商工会だけでなく、清須市の財政力をアップするような方策はどこかに謳ってありますか。

(野田会長)

この後の議論において、基本計画の骨子案のところでも、むしろその後の個別の事業施策の内容に入っていく話なのですが、まちの振興というときに、地元の商工会、企業の方々に活気があるということ自体がひとつの重要な源泉になります。ただそこに予算配分を手厚くできるかということと他とのバランスもあるので、そこはおいおいご議論いただければと思います。

(後藤(鈴)委員)

商工会の話があったのですが、私は商工会の役員を務めています。なぜ活性化しないのかというと、今の社会情勢で、大手のスーパーが出店すればそこに集中し、個人店が衰退するというのは日本中で起こっていることです。そこをどうしたら活性化できるのかは日々検討して会議などを開いていますが、ハードルが高い問題です。そのために日々努力しており、会員を募集したり、施策をしたりしていますが、商工会の発展の決め手となるような案があれば、皆さんに教えていただきたいと思います。

また、基本理念のはぐくみの3つ目の項目に「市に関わる人々の町に対する誇りと愛着を「はぐくみ」、育てることができるまちづくり」とあります。キーワードを入れて文章を作っているのはわかりますが、無理にとってつけてはめ込んだ印象を受けました。

(野田会長)

前段の商工会の活性化の話がこの地域や会としての「はぐくみ」つながりということを体現されたように受け取りました。方向性としてはご理解ください。

(後藤(鈴)委員)

全体的によいのではないのでしょうか。キーワードも盛り込まれておりよくできています。

(水谷副会長)

今、後藤委員と水野委員がおっしゃっていただいた経済活動についてですが、出店してそこが盛り上がるということは大事だと思うのですが、確かに理念のなかに入っていません。商工業が活性化するような、そういったまちであるということも大事なのではないでしょうか。

また、「はぐくむ」という言葉は私にとって親しみがある言葉なのですが、「地域全体ではぐくんでいく」という意味ではないのでしょうか。基本理念が4本の柱で書かれていますが、「はぐくむ」は全体にかかる横軸機能があると説明をいただいているので、もし理念を打ち出していくときには、全体をはぐくんでいるようなイメージ図があるとよいと思いました。

(野田会長)

今のご意見は、次の議題の骨子案のなかでもより具体的になって納得いただけるのではと思っています。基本理念の「魅力」のなかに、「地域の特性を生かした

がら、「魅力」に満ちた活動ができるまちづくりを進めます。」あるので、これを具体化するのが骨子案となるかと思えます。ですので、一旦、先に基本計画の骨子案について事務局から説明をいただこうと思えます。

《審議事項》

(2) 第3次総合計画 前期基本計画骨子の検討について

(野田会長)

それでは、事務局から説明をお願いします。

(岩田主査)

【資料⑤を説明】

(野田会長)

ありがとうございました。こういうかたちで、基本構想のなかの7つの政策、7つの柱が、展開されていくことをイメージいただけたかと思えます。

というわけで、先ほど審議をしていた、資料④の序論・基本構想の素案について、細かな文言の修正、ここを変えたほうが良いなどの意見があれば、これ以降、またお受けしたいと思えますが、基本的にこの事務局案のかたちでご了承いただけるかということをお諮りしたいと思えます。委員の皆さま、いかがでしょうか。

[異議なしの声]

(野田会長)

ありがとうございます。それでは、ご了承いただけたということで進めさせていただきます。

そのうえで、いまご説明いただいた、資料⑤ 前期基本計画の骨子案の審議に移りたいと思えます。

施策体系についてはスリム化を図り、より分かりやすくということでした。事業の数が減ったわけではなく、行政としてやることが減るというわけではないんですけども、分かりやすい、伝わる計画づくりを意識したものとのことでした。

委員の皆さまから、ご質問やご意見等はございますか。

(高山委員)

施策の数が減ったのとあわせて、施策のタイトルは長くなっています。いくつかをひとつにまとめた結果、やむを得ないものもあるかもしれませんが、個人的には削れる文言は削ったほうが読みやすくなるのではないかと思えますが、皆さんどう思われますか。

(野田会長)

確かに、私も言われてみて改めて見ると、同じ感想を持ちました。この施策名称は、施策の評価を行う際にも資料にのってくるので、そう考えると修飾語が長いというイメージを持ちましたが、事務局どうでしょうか。

(事務局)

確かに、現行のもの比べてだいぶ長くなっています。

案を作成したときの思いとしまして、例えば、以前は「防災・減災対策の推進」だったところを「住民の生命や財産を守る防災・減災対策の推進」としています。災害への対策を進めることは、住民の命と財産を守ることにつながるんだという、市として我々もそういった認識をもって取り組んでいく意識の表れになればと考えて、こういった修飾語をつけています。

他にも、例えば福祉の分野では、ただ単に「高齢者福祉」を推進するのは当然なのですが、どういったことを大事にしながら進めるかという、「いつまでも自分らしく元気に暮らしていってもらおう」ことです。そういった姿を目指したいという思いを込めた施策の名称案になっています。

ですが、これはあくまでも案として作成したものですので、この審議会の場で、委員の皆さまからご意見をいただきながら、よりよいものにしていけたらと思います。

(野田会長)

通常は施策といえば「高齢者福祉」や「地震対策」という言い方をしますが、そこに修飾語をつけて何を重視しているかを主張しているとのことでした。文章を書く時にはいいような気がするのですが、施策の議論をするときには「防災は…」という議論になると思うので再考してもよいかと思いますが、委員の皆さまはいかがでしょう。

(高山委員)

今まで「防災・減災対策の推進」だけであったものが、「住民の生命と財産を守る防災・減災対策の推進」となったとすると、何となく市が住民の命と財産を守る、守ってあげるというニュアンスにも見えます。きっかけをつくってあげることで、住民の皆さまそれぞれが主体となって意識していただきたいという環境をつくっていくこともここに含まれてくると考えると、この修飾語がないほうが幅広く入ってくる気がします。

(野田会長)

修飾語が短いほうが定義の範囲が広がるというイメージはあります。行政の思いはわかるのですが、コミュニケーションの量を多くして相手に伝えようとしても、文字ベースにしたときは簡略化する方が相手に伝わりやすくなります。長くなると文章量が多くなりすぎてわかりづらくなる部分があるので、どちらがよいかというのは最終的に検討いただければと思います。

(齋藤委員)

今年の新年早々から能登半島地震がありました。こちらの地方でも南海トラフ地震が発生すると予想されています。能登にボランティアに行った人に話をうかがったのですが、一番の問題は避難所が整っていないことだと言っていました。トイレ問題は非常にひどく、地震が起きてから1日、2日機能しなかったという話でした。準備できていると思っても、想定外の災害は起こります。過去を教訓に、災害について清須市も取り組んでいかないといけないと思いました。私は第1次総合計画の策定から携わっているのですが、防災についてはあまり変りばえがしないと思います。地震は起こってみないとわからない。何をしたらよいかも地震の規模によって違うし、様々なことを想定して未来のことを考えるにあたり、計画で細かいことを決めるのではなく、その場で適応できるような体制づくりを考えていかなければなりません。

少子高齢化が進み、防災に携わる人も高齢化しています。例えば、私が所属している消防団においても、年々消防団のなり手がいなくなっています。清須市では293人の定員のうち、32名が欠員となっています。

先日、西枇杷島地区で火災があったのですが、昼間の消防団の人数は3分の1も満たないくらいです。消防団員の減少をどうしたら食い止められるかを考えているのですが、そういったことを生かし、まちづくりにつなげていきたいので、これからもよろしくお願いします。

(野田会長)

想定外のことを想定内にしていくためには、地震が起きてみないとわからないという部分もあるのですが、つながり、はぐくみと言っているので、普段からつながっておけば緊急時にもよいと思います。ありがとうございました。

(鎌田委員)

構想計画は99.9点です。実施計画でなくて具体的な実施方法や具体策がでると100点になります。

私は、4回目の成人式を迎えました。私の人生の中で災害というと、私が生まれたときは防空壕でB29を見ました。その後は、16歳の時に伊勢湾台風がきました。父から川で丸太の間に人間がごろごろ転がっているという話を聞いて、次の日に見に行ったところ、丸太の間に人間の死体がたくさん浮いていました。6,800人くらい亡くなったそうです。22年ほど前の東海豪雨の時、私は中心地に住んでいました。地盤が低いところに住んでいたため、駐車場から2m50cmまで水が来ました。新川の堤防と庄内川の堤防に挟まれたところが西枇杷島町です。西区で堤防が切れて美濃路街道まで水が来ました。1階は浸水し、冷蔵庫も倒れて箆箆もひっくり返し、水圧でドアも開かなくなりました。そういった経験をしてきました。

(野田会長)

鎌田委員は様々な人生経験をされているので、語り継ぐことができる場をつくっていき披露いただければと思います。計画については、鎌田委員から見て具体

的にやっていくということが重要だということによいですか。

(鎌田委員)

そのとおりです。あともう少しだけ話をさせてください。42年間大須に月に3回民謡の稽古に通っていました。大須の発展会の人とも親しくなり、大須がいかにして発展してきたのか様々な話を聞きました。なぜ大須の発展会が元気になったかという、30年位前にシャッター通りになった時に、発展会が1年間家賃の半分を補助することにしたそうで、そうしたら店が入ってくるようになり、再び大須に活気が戻ってきたようです。

西枇杷島で山車祭りの実行委員会が年に1度あるのですが清須市には宿泊所がないので他市に行かないといけません。市としても宿泊施設をつくってはどうか。宿泊施設をつくっていくことを考えないと商業の発展もありえません。例えば、清洲城が有意義に活着ているかという元気ではない。日本でもお城を宿泊所としているところもあるので、清洲城も宿泊施設にしてはどうか。

(野田会長)

行政計画、基本計画をつくっていくなかで、今のようなご意見も担当課にお伝えしていけたらと思います。

基本計画骨子案に話を戻しまして、この骨組みをもとに進めるということで、これに文章を加筆して最終的な冊子にしていくのですが、どうでしょうか。

(渡辺委員)

先ほどの、施策の名称が長いところは短くするということが決まってしまったのでしょうか。

(野田会長)

事務局でご検討いただくということになりました。

(渡辺委員)

そうすると前の37の施策と一緒にになってしまう、戻ってしまうということでしょうか。私は、個人的に「障がい福祉」のところのノーマライゼーションという言葉が好きなので残して欲しいです。

(野田会長)

一番よいのは、ノーマライゼーションの推進とか、新しいキーワードを全部包括できるものがあればよいのかもかもしれません。今のご意見もご検討いただければと思います。文章が長くなることによって、逆に理解しにくくなるという部分がある一方で、今お伝えいただいたキーワード、全方向読み込んでいるものであれば更によいのかなと思います。今のご意見でいうと、ノーマライゼーションという言葉がよいということですね。

(原委員)

私は大学生で、同じ世代の人に清須市のよいところや魅力を聞かれるのですが、清須市には何があるのかが具体的にわかりません。私だけでなく、清須市に住んでいる若い人は、清須市の魅力は何だろうと思っている人が多いと思います。SNS等で魅力を知ることができるなど、清須市のPRがあればよいと思います。

(野田会長)

おっしゃられるとおりです。まずは周知して知っていただくというところは、つながりやはぐくむうえでの前提だと思います。

また、清須市は何かあるのと聞かれたら、逆に私は、何でもあると思っています。都会的なものやショッピングモールがあるとよいまちとされていますが、普通に子育てをしようとしたら清須市はほとんどが居場所である。小学校から家に帰るまで、ところどころ常に遊べる場所があります。若い人たちに清須市の魅力を知ってもらうためにも、何か広報のためのツールを用いながら、今まで普通だと思っていたことも発信できるようにしていけるとよいと思います。貴重なご意見をありがあとうございました。

(水谷委員)

基本計画骨子案に具体的な政策と施策の一覧があるのですが、これを見ていくと、それぞれにやっぱり縦割りの的になっていると感じました。例えば、No. 402 は公共交通の充実とあります。市民参画会議でも公共交通は大事だと言われています。また市民参画会議では産業の活性化もキーワードとして上げられています。

政策5のNo. 502 はもう少しまとめて、例えば、駅前にお店をつくることを支援していこう、のように統合してはどうでしょうか。おそらくそれが、「はぐくみ」ということだと思います。施策を横軸でつなげるような施策や機能がどこかに入るとよいかもしれません。

(野田会長)

そのあたりはプロジェクトを立ち上げていったときに、いくつかの分野の施策が融合的につながることはあると思います。まずは体系からということなので、できる限り、縦割りになりすぎないように集約したという部分もあるかと思っています。そういったことで風通しがよい組織運営をしていただきたいです。プロジェクトの段階で、今のような融合的なことも進めていければと思います。

それでは、基本計画の骨子案について、この事務局案をベースに今後、素案を作成し、具体的なものを皆さまに見ていただくということになりますが、委員の皆さまよろしいでしょうか。

[異議なしの声]

(野田会長)

ありがとうございます。それでは、基本計画の骨子案は、事務局案を了承する

ことといたします。

これで、本日予定されている議事は全て終了となりますが、最後に、全体を通じてごなにかご意見等はありませんか。

(後藤(鈴)委員)

No. 601の「文化・芸術・生涯学習の充実」があるのですが、洗練されたまちは芸術や文化が発展しています。清須市では芸術という点では美術館の運営をしていますが、絵画等を展示しているくらいです。芸術・文化には様々なものがあり、音楽やクラシック等も充実するとともに洗練されたまちになるのではないのでしょうか。

(野田会長)

そのあたりも、次回の審議会の議論で深めることができるのかなと思います。貴重なご意見として、次に引き継いでいきたいと思ひます。

ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。

4 閉会

(林企画政策課長)

皆様、どうもありがとうございました。

第3回の審議会は、6月下旬頃を予定しております。詳細は、あらためてお知らせをさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、以上で終了とさせていただきます。

本日は長時間に渡り、ご審議を賜りまして、ありがとうございました。

問い合わせ先	企画部企画政策課 052-400-2911 (内線3251)
--------	-----------------------------------

会議の経過を記載して、内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

署名委員 後藤 鈴明

署名委員 野田 依天